

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

[TAKUSUI]

水産

11

NOVEMBER
1993



特集 水産ぎょうせい

No.445

COLUMN

野路菊を知っていますか

◆ノジギクは路傍の花としては季節が遅く、北風の吹く頃に花をつける。キク独特の芳香を漂わせて、海岸の斜面に自然な懸崖つくりとなり、見事な景観を見せる。そして寒い木枯しの中で種子を結ぶ。名前には知っていても実際に見た人が少ないのは、そんな季節のためだろうか。

◆県南部では、極めて普通に見られたノジギクも、実に少なくなつた。海岸の整備が進み、ほとんど崖地がきれいな人工壁に変わった

ためである。ススキやセイタカアワダチソウの追討で、さらに減少の一途を辿っている。兵庫県の花に指定されていても、こんなに少なくなつては面目がなからう。一部を公園化して保護を図っているが、人の手が加わってはノジギクではない。野生の素朴な姿でこそ「野路菊」である。

◆以前、筆者は増殖を企て、一時は崖地一面を花で覆ったが、過保護にしたせいで、やがて自滅させた苦い経験がある。自然とは、人為の加わらないことなのだから、野生の姿を人工的に作ることはム

りがあるのだろう。整備や保護の名の下で、つまらぬ破壊を繰り返しているのが現状ではなからうか。

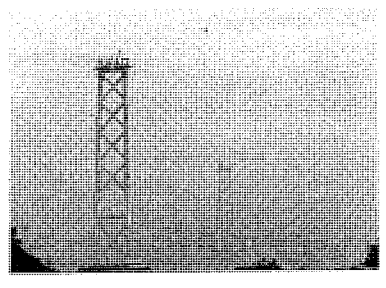
◆絶滅に瀕する動植物を、保護しようという動きがある。保護が必要なまでに追い込んだのは人間のだから、保護は保護だとシャシャり出するのもおかしい話だ。四、五年も人が一切の手出しをしなれば自然は回復する。自然界には充分な復元力がある。縄でも張り廻らして人間を近づけなくするのが、最善の道だろうが、整備するよりも遙かに難しいことではある。(遊方子)

拓水 NOVEMBER CONTENTS

| | | | |
|-------------|------------------------------|---------|----|
| ESSAY | わが家の「サカナ」考 | 小坂 靖三 | 1 |
| 神戸市漁協情報 | アーバンリゾートフェア神戸93に参加して | | |
| 特集 | 水産ぎょうせい | | 2 |
| インフォメーション | 生物季節観測の紹介 | | 3 |
| 水試ノート | 小型底曳網における角目袋網と菱目袋網の網目選択性 | | 4 |
| TOPICS | 第10回淡路地区漁婦連バレーボール大会 | | 6 |
| 漁海況情報 | 海区漁業調整だより | | 7 |
| 栽培漁業センターです | 普及員だより | 松葉ガニ漁解禁 | 8 |
| 旬の美味い話 | うまづらはげのフライ | | 10 |
| 兵庫JCC通信 | 農薬と食料を守る会結成 「PL法シンポジウム」開く | | |
| こちら海ですロケだより | ～由良の旨い魚～売りマッセ 兵庫県洲本市由良町より | | |

今月の表紙

フォトギャラリー



表紙撮影
長野 達矢さん
〈淡路町漁協〉

フォト歳時記

海峡の橋(淡路町松帆にて)
潮の速さで知られる明石海峡。その真中に尖塔がそびえている。数年前までは「夢の架け橋」と呼んでいたが、それが目の前に巨大な姿を見せている。
世界で初めてという空中の作業を繰り広げ、淡路と本土が一本のロープで結ばれる。歴史的な瞬間を大勢が見守る。ヘリコプターの響きに、確かな明日への足音を感じた。
冷たい風が頬に快く、頭上で高がゆっくりと旋回している。遠い島嶼のあたり、漁船がゴマ粒のように見える。

表紙写真募集

アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記して、お送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名(フリガナ)③郵便番号・住所④自宅電話番号(市外局番号も)⑤年齢・職業

送り先

千六五二神戸市兵庫区中之島二丁目
二一―県立水産会館
兵庫県漁業協同組合連合会
指導部指導課「拓水」係宛

わが家の「サカナ」考

神戸市漁業協同組合

参事 小坂 靖三

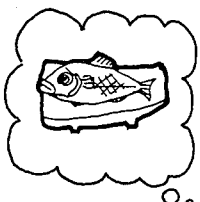
あったばかりか、その孫までが魚好きである。特に、はやりの魚を食材として、原形を変えたような調理食品は必要としない。ナモノであろうとヒモノであろうと素材で十分。殆ど毎日でも苦情は言わない。

ふだんはシュン(旬)に合わせた大衆魚(多獲性魚類)しか買わない。買うのは鮮魚店かスーパーだが、専ら地ものを選ぶことにしている。しかし、流通の機構や技術が発達した今日では、見た目で区別できることは少ない。食べてみて、はじめて「回りのものと違うか」と気づく。地先ものとわかって買った大ぶりのアジやツバスなどが食卓にあがるときは、値をきいてみることもある。一匹何百円とかで「結構高いなあ」ともらすとたちまち反撃をくう。家で買うのはせいぜい二〜三匹、浜値のことをいうのは大間違い。小売りまでの流通経費やロス、それに調理や包装の手間など付加価値がつくと高くなるのは当たり前。地先ものだからおいしい、おしいければ値のことはいいな、と。

サカナという語源は「酒菜」であり、酒を飲みながら食べる菜のことをさし、野菜や鳥獣肉も入るが、特に魚をサカナと呼ぶようになったのは最もおいしく、代表的なサカナが魚であるからという。それ程、魚は日本人の食性のなかで重要な役割をはたしてきたということ、かつて本で読んだことがある。もちろん、わが家の「酒菜」も魚であり、人に劣らぬ消費者だと自負しているし、何もこのことと漁業組合に勤めていることとは、関係はなさそうである。とにかくわが家は魚好きの家系であるらしく、今はそれぞれ独立して出ていったが、四人の子供が皆そうで

多品種、少量型の消費傾向は品質、鮮度のより高いものを求めていく。そこには付加価値がついて当然である。瀬戸内の魚は安心できるしおいしい。つまり買う方は無意識にブランド(商標)化しているわけであると思うことがある。地先ものか回りか見分けがつかぬ消費者からいうなら瀬戸内の魚の表示ができないだろうか。魚の名(切り身になればわからぬ魚が多い)にし

てもやたらと何々鯛というのが多いのもおかしいし、獲れた場所(産地)、獲れた日付、量目さらに天然、養殖ものの区別など表示があれば、絶対的な商品提示になり消費者に強くアピールするのではないか。そして産直ももっと拡大してよいのではないかと。その点ヒモノや藻類はある程度表示のあるものもあるが十分ではない。わが家のヒモノは、もっぱら自家製のものが多。地先ものの多獲魚を安く手に入れ直接手をかけてつくるから、安心しておいしいものを食べている。



神戸市漁協情報 アーバンリゾートフェア神戸93に参加して

「二十一世紀に向け神戸市が目指しているアーバンリゾート都市、その町造りと生活様式についての模索、提案、実験、体験の場を設け、そこから得られた市民をはじめ多くの人々の提言、提案を将来の町造りに生かしていく」ことを目的として、神戸市内全域においてイベント等が開催されました。

当組合も神戸市農政局主催の「神戸蘭展」をかきまきりに数多くのイベント参加要請が神戸市役所の各局から依頼があり、組合職員は勿論のこと組合員、水産研究会、婦人部員あげてイベントに参加してきました。

ここで主なイベントをあげると、農政局主催「神戸おさかなフェア93」、経済局主催「市場祭り」、交通局主催「地下鉄海岸線フェア」、長田区役所主催「駒ヶ林左義長祭り」、須磨区役所主催「ラジオ体操バザール」、垂水区役所主催「垂水アーバンリゾートフェスティバル」等があり、これ以外に日祭日にある農業公園朝市、総合運動公園でのグリーンフェスタ、平磯運動公園での住宅フェアでの即売会が加わり、職員にすればこれらの対応に日々追われ、日祭りもろくになかった部課もありました。

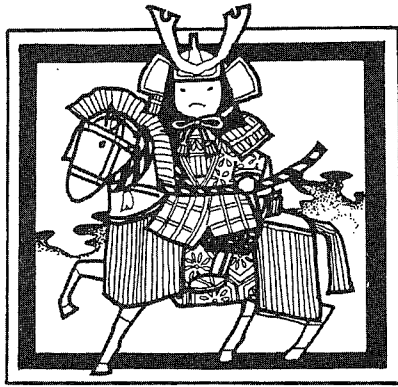
また、それぞれの即売会では収支がとれず、ほとんど赤字の状態でありましたが、日ごろ水産振興で神戸市にお世話になっており、市民の皆様はこの時はかりと思ひ、新鮮な魚介類を安価で供給するように頑張ってきました。

今回、それぞれのイベントに参加することにより、色々と勉強にもなりました。今後、神戸市は勿論のこと兵庫県関係においてもイベント参加の要請があれば、出来る限り参加し、県民並びに市民に新鮮な魚介類を安価で供給できるように努めて参りたい所存です。

特集

水産ぎょうせい

水産課 課付



課付は縁の下の力持ち

時は西暦一九九三年、本下將軍(水産課長)の世は、大老(参事)に秋武、老中(副課長)に森、小西を擁し、その下に直参(各係長)の楠本、鈴鹿、土岐、八橋、旗本(水産業専門技術員)に堀を揃え、磐石の体制を敷いていた。

老中の森は、この体制を強化するため密かに直轄の影の組織を編成し、他国の情報収集に当らせた。
世の人はこれを『課付』と呼んだ……

水産業に携わる皆さん、はじめまして。水産業の影の組織『課付』の岩佐です。

『水産課』のご案内も今回で最後になります。本下課長を頂点に総勢三十四名(出向職員を除き、臨時職員、アルバイト、嘱託員を含む)を擁する『水産課』という組織が一体どのような仕事をしているところかは、今までの漁政係に始まり、開発係、組合指導係、漁場整備係、水産業専門技術員へと続いた各係からのご案内で充分(?)理解頂けたかと思えます。

これら各係の職員以外に水産課には、課付(かつき)と呼ばれる職員が臨時の女子職員を含めて三人います。庶務を担当しています。

担当する事務の殆どが内部事務であるため、皆さんの前には、姿を見せる機会が無い、文字通り、影の存在です。

この課付を実戦部隊の隊長としてしっかり束ねているのが、筆頭でドッシリと(体形的にはそうは見えませんが迫力はあります)座っている福住さんです。

福住さんは、主として水産課の予算要求の窓口となり、国で言えば大蔵省にあたる県の財政課との折衝に、現在、日も夜も無い状態が続いています。

各係から予算要求の資料を集め、それぞれの緊急性、必要性を吟味し、要求金額を調整し、予算の獲得に臨みます。

福住さんの答弁一つで、水産課の予算が少なくとも十万円単位で変動することになるので、本人が感じられるその緊張感とは半端なものではないと思います。

水産課には、古くから「この席に座った人は偉くなる」との言い伝えがありますが、これだけの仕事をこなせて、偉くなるのは当然だと思ってしまう。福住さんも早く偉くなって、私を引っ張って欲しいと思う今日この頃です。

それと、その次に体形的にドッシリと座り、面の皮は厚く頭頂部は薄いと言われている私、岩佐ですが、平成二年に水産課に転勤してきた当時は、半年でした。組合指導係にいて、近代化資金の貸付をしていたため、顔をこ存じの方もいらっしやるかと思えます。

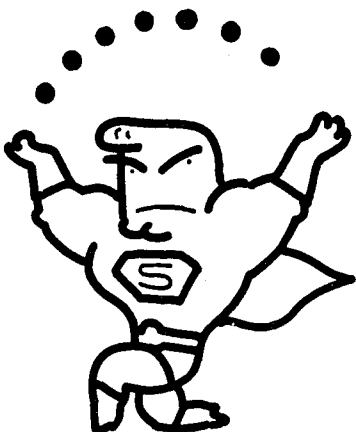
既に水産課で3年が過ぎ、事務屋の割に水産課で古参となりつつありますが、今は、課付で主に予算の執行面を担当しています。水産課で必要な消耗品の補充などが私の仕事です。

そして、水産課正面の入り口近くに座り、部屋に來られた方に笑顔を振り撒い

ている若さ溢れる課付の紅一点が竹内さんです。彼女は、主として、水産課の職員の福利厚生等を担当しています。

これらの仕事は、直接、皆さんと関わってくる仕事ではありませんが、水産課各係の職員がその所掌する事業を執行するための「縁の下の力持ち」であると自負しています。

このような仕事を担当しているため、私達は、外にでて、皆さんと直接お話しする機会がありませんが、水産課に、お見えの際には、気軽に声を掛けて下さい。



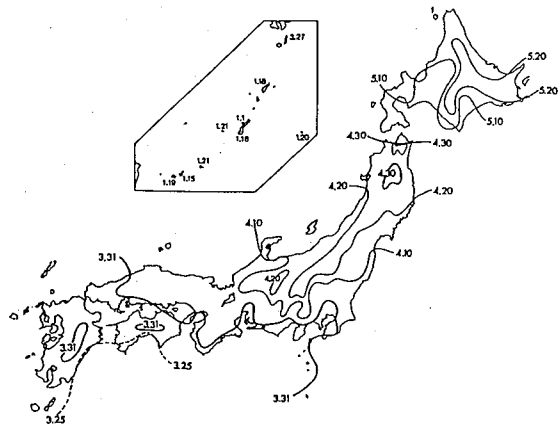
生物季節観測の紹介

舞鶴海洋气象台

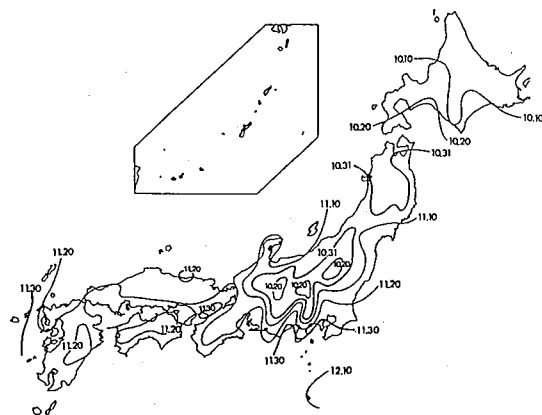
予報官 河野 俊雄

| 種別 | 現象 | | | | | 種別 | 現象 | | | | |
|--------|-------|-----|-----|-----|---------|---------|----|-----|-----|----|-----|
| | 種目 | 発芽日 | 開花日 | 満開日 | 紅葉(黄)葉日 | | 種目 | 初鳴日 | 初見日 | 種目 | 初鳴日 |
| 植物季節観測 | ウメ | ○ | | | | ヒバ | ○ | | | | |
| | ツバキ | ○ | | | | ウグイス | ○ | | | | |
| | タンポポ | ○ | | | | ツバメ | ○ | | | | |
| | サクラ | ○ | ○ | | | モンシロチョウ | ○ | | | | |
| | ヤマツツジ | | ○ | | | キアゲハ | ○ | | | | |
| | ノダフジ | | ○ | | | トノサマガエル | ○ | | | | |
| | ヤマハギ | | ○ | | | シオカラトンボ | ○ | | | | |
| | アジサイ | | ○ | | | ホタル | ○ | | | | |
| | サルズベリ | | ○ | | | アブラゼミ | ○ | | | | |
| | ススキ | | ○ | | | ヒグラシ | ○ | | | | |
| 動物季節観測 | イチョウ | ○ | | | ○ | モズ | ○ | | | | |
| | カエデ | | | | ○ | | | | | | |
| | | | | | ○ | | | | | | |

第1表 規定種目の対象生物季節現象



第1図 サクラの開花日の等期日線図(平年値)



第2図 カエデの紅葉日の等期日線図(平年値)

気象庁では、気象観測や天気予報の他にも色々な業務を行っています。その中の一つに「生物季節観測」があります。気象官署で行う生物季節観測は、植物及び動物の状態が、季節によって変化する現象について行う観測をいい、その目的は「生物に及ぼす気象の影響を知るとともに、その観測結果から季節の遅れ進み、気候の違いなど、総合的な気象状況の推移を知ること」です。

生物季節観測は北海道から沖縄まで、全国百余の気象官署で行われています。生物季節観測は、その対象となる生物

により、植物季節観測と動物季節観測に分けて行われています。植物季節観測として観測する生物季節現象は、植物の発芽、開花、満開、紅(黄)葉、落葉及びそれらの不時現象であり、動物季節観測として観測する生物季節現象は、動物の初見(終見)または初鳴及びそれらの不時現象です。生物季節観測として観測する種目は、指定されたすべての気象官署が観測する規定種目(第1表)と、各気象官署がその種目を選択して観測する選択種目に大別されます。

規定種目は、各地の生物季節観測の結果を互いに比較したり、同一地点の観測結果を長期間にわたって比較するなどのため、なるべく日本全国に広く分布している生物を対象にして定めています。また、気候条件の違い等により、規定種目に定められた生物の生育または生息が難しい地方、地域においては、同属の種目を代替種目として観測することもできます。

選択種目は、規定種目だけでは季節の推移を十分に示すことができない場合、その不十分な期間を補ったり、全国的には分布していないが特定の地方に広く分布している、その地方の季節の遅れ進みを知るのに適していたり、分布は広いがその地方の気候や産業との関係が密接で、一般の関心が深いなどの生物を対象にしています。(植物では、スイセン・スマイレの他十九種目、動物では、ハルゼミ・ニホンアマガエルの他十四種目の中から、各官署が選択して観測をしています。)

こうして観測された結果がまとめられ、同一月日をつなぐ線を、等期日線図と言います。

それでは、代表的な例として、テレビや新聞等でおなじみの「サクラの開花日の等期日線図(平年値)」、(第1図)を見てみましょう。一月中旬に沖縄の諸島で開花しはじめ(※注 沖縄ではヒカンザクラ(緋寒桜)、北海道ではエゾヤマザクラの開花日が観測されています。)、

三月下旬の中頃には九州南東部と四国南西部に上陸し、三月末には関東以西の太平洋沿岸から山口県、島根県の一部まで、四月十日頃には能登半島付近まで咲きそろういますが、東北北部には四月下旬、何と北海道では五月に入ってから咲き始めることとなります。このように、沖縄から北海道まで四ヶ月もかかって、桜前線はゆっくりと北上していくのです。日本海西部沿岸でも、三月下旬の浜田市から四月十日過ぎの能登半島まで、十日余りかかっています。

それとは反対に、北海道から九州まで二ヶ月近くをかけて南下していく、カエデの紅葉前線のようなものもあります(第2図)。

これから初冬にかけて観測される種目としては、ススキ、カエデ、イチョウ、モズ、等があります。

ススキの開花日は、金沢市で八月中旬に観測されますが、下関付近では九月下旬頃となっています。

モズの初鳴日は、能登半島付近で九月中旬に現れますが、島根県では十月初旬になる所もあります。

前出のカエデの紅葉日は、能登半島の北部で十一月初旬に観測されますが、下関市では十一月下旬になります。

一般的に、初秋から冬にかけての種目は、観測日が北から南へ移っていく現象が多く、一方、初春から夏にかけて観測される種目は、南から北へ移っていくものが多くなっています。

開発・都市化が急速に進められている近年また、他方で環境汚染の影響等もあって、生物季節観測を取り巻く状況は、厳しいものになりつつありますが、世界でも有数の日本の美しい四季を、できるだけ長く、植物や動物から感じたいものと思っています。

小型底曳網における 角目袋網と菱目袋網の網目選択性

近年、底魚資源の保護を目的として様々な取り組みが行われています。当水産試験場では、資源管理型漁業推進総合対策事業を中心にこの問題に取り組んでいます。その中で、平成三年度は、小型エビ類とアナゴについて、その網目選択性を調査し、目合拡大の可能性について検討しました（拓水四二六号の水試ノートに掲載）。平成四年度はさらに、同一目合の角目袋網と菱目袋網を用いた試験操作を実施し、それぞれの網目選択性を比較検討しました。ここにその概要を報告します。

角目網は、一般に菱目網に比べて袋網に漁獲物がたまって網目がつぶれにくく、その網地が本来持っている網目選択性を失いにくいと言われています。そのため、同一目合を用いた場合、菱目網よりも幼稚魚などが網目から抜けやすく資源保護に適した網であるといえます。しかし、網の強度が菱目網に比べて弱いため、現在、小型底曳網では、菱目網が使用されています（一部の漁業者は、角目網を使用している）。

角目網における網目選択性の研究は、これまでヨーロッパのトロール網などで

行われています。しかし、ほとんど単一魚種を漁獲対象とするヨーロッパのトロール網とは異なり、多種多様な漁獲物を漁獲対象としている瀬戸内海の小型底曳網では、角目網の有効性は明らかではありません。そこで、本調査では、小型底曳網

において網目目合の拡大を制限している小型エビ類とアナゴを対象に角目袋網と菱目袋網の網目選択性を調査しました。試験操作は、平成四年七月十五日と十

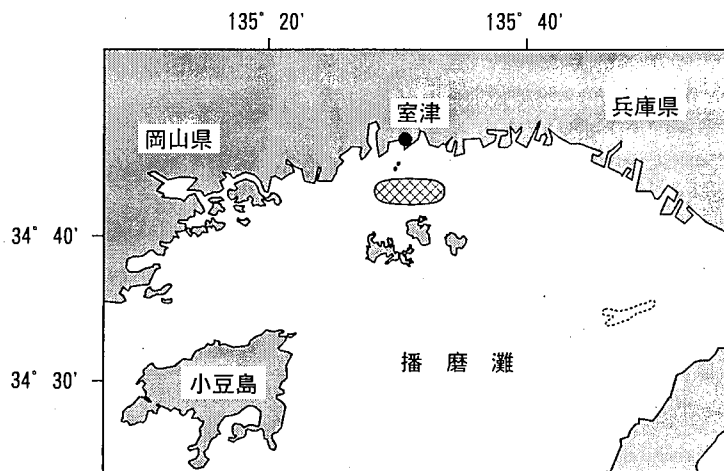


図1 播磨灘における試験操作海域（斜線部）

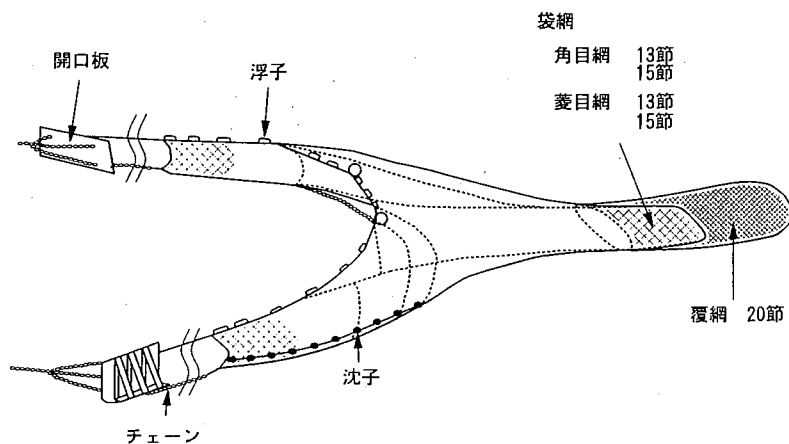
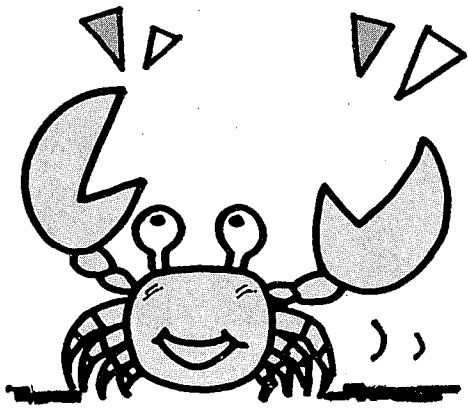


図2 試験操作に用いた板曳網の模式図



月六日に室津漁協のご協力を得て、図一に示した海域で行いました。図二に試験操業に用いた小型底曳網(板曳網)の模式図を示しました。操業は、袋網の外側に呼称目合で二十節の覆網を装着したカバーネット式としました。各回とも四隻の板曳網を用い、それぞれの袋網の目合を呼称目合で十三節の角目網と菱目網、および十五節の角目網と菱目網としました。曳網時間は、通常の操業と同様に四十分間とし、四回行いました(ただし、十五節の菱目網は二回)。得られた漁獲物は、十%ホルマリン固定を行い、小エビ類とマアナゴを選別しました。その後、小型エビ類は種毎に分類し、頭胸甲長を測定し、マアナゴは肛門長を測定しました。さらに、それぞれの種毎に任意に抽出した個体について、小型エビ類は頭胸甲長—体長、マアナゴは肛門長—全長の

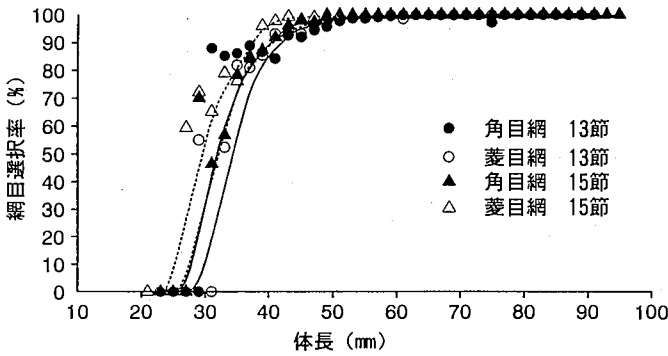


図3 サルエビの網目選択性曲線

関係式を求めました。網目選択率はそれぞれの体長階級毎の全漁獲尾数に占める袋網の漁獲尾数として定義しました。

1、サルエビの網目選択性

小型エビ類を種毎に分類した結果、サルエビ(カワツ、コプト)とトラエビが漁獲優占種であると考えられました。ここではサルエビの網目選択性を報告します。体長の階級幅二mm毎にサルエビの網目選択率を求め、体長に対してプロットしたものを図三に示しました。各袋網におけるサルエビの五十%選択体長(袋網に留まる個体と覆網に抜ける個体の境界となる体長)は、目合が十三節の角目網と菱目網および十五節の角目網と菱目網でそれぞれ約三十四mm、三十二mm、三十二mm、二十九mmでした。この結果から、

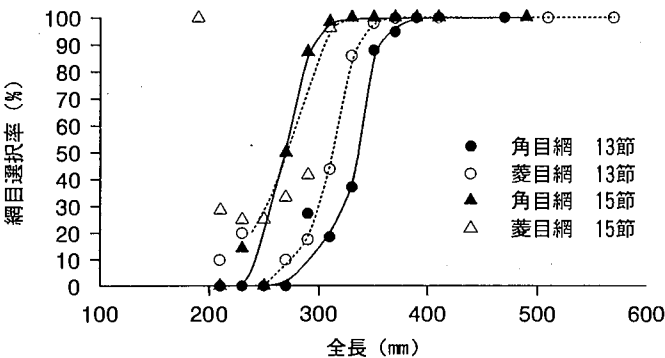


図4 マアナゴの網目選択性曲線

同じ種類の網地では、目合が小さい程、体長の小さいサルエビが袋網に留まっていた。また、同じ目合の網地を比較すると、角目網の方が菱目網に比べて体長の大きいサルエビが覆網に抜け出ていることが分かりました。

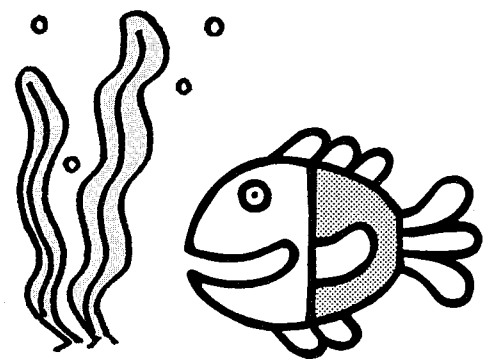
2、マアナゴの網目選択性

全長の階級幅二十mm毎にマアナゴの網目選択率を求め、全長に対してプロットしました(図4)。各袋網におけるマアナゴの五十%選択全長は、目合が十三節の角目網と菱目網および十五節の角目網でそれぞれ約三百三十mm、三百十mm、二百七十五mmでした。十五節の菱目網は曳網回数が二回で十分な標本が得られなかったため、五十%選択全長を求めることが出来ませんでした。サルエビと同様、マ

アナゴも十三節と十五節の角目網を比較すると、十五節の方が小さいマアナゴが袋網に留まっていました。また、十三節の角目網と菱目網を比較すると、角目網の方が全長の大きいマアナゴが覆網に抜け出していました。

3、まとめ

以上のことから、同一目合の場合、角目袋網と菱目袋網のサルエビとマアナゴに対する網目選択率は、両種とも角目網の方が大きいという結果が得られました。このことから、多種多様な漁獲物が入網する瀬戸内海の小型底曳網でも、角目袋網の方が網が本来持っている選択性が失われにくいと考えられます。兵庫県下の海域では、ヒトデやクラゲなどの未利用種やさまざまなゴミが多く入網する場合があります。このような場合は特に、幼稚魚が網目から抜けやすい角目袋網の方が資源保護に有効であると考えられます。



TOPICS

第10回 淡路地区漁婦連 バレーボール 大会

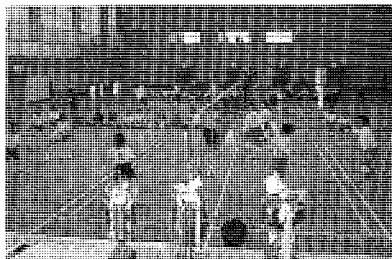
三年ぶり三度目優勝 福良漁協婦人部

第十回目を迎えた淡路地区漁協婦人部連合会親睦バレーボール大会が、去る十月十六日(土)三原町体育館で開催されました。

部員相互の親睦と健康維持をはかることを目的として開催している大会に、島内各地より十四チームが参加し、優勝を目指して熱戦を繰り広げました。

まず、開催にあたり、淡路地区漁婦連、播磨会長が挨拶、続いて来賓の方々を代表して(社)淡路水交会・鯛会長、兵庫県漁連・日高参事より挨拶をいただきました。

引き続き前年度優勝チームの仮屋漁協婦人部より優勝杯の返還、続いて沼島漁協婦人部の山岡千代さんが選手宣誓を行い、熱戦の火ぶたが切られました。



主人や子供達の声援を受けながら、競技は、A、B、Cブロックに分かれ変則リーグ方式(三セット目は、ラリー制)で予選を行い、その結果、上位六チ

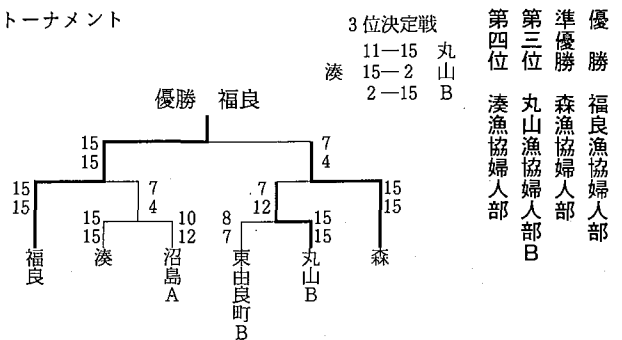


淡路漁婦連バレーボール大会

つき、好プレーが続出、早朝から熱戦が続きました。しかし、日頃の練習成果を発揮しないまま敗退するチーム、精一杯プレーしたためか、さわやかな笑顔を残し、来年の大会に夢を馳せさせ去っていったチーム等々……。次回の大会が期待されます。尚、試合結果は、次のとおりです。

ムが準々決勝へと駒を進め、トーナメント方式で優勝目指して対戦しました。各チームとも回を重ねることに技術もレベルアップ、アタック、ブロック等、コンビネーションバレーも板に

決勝トーナメント

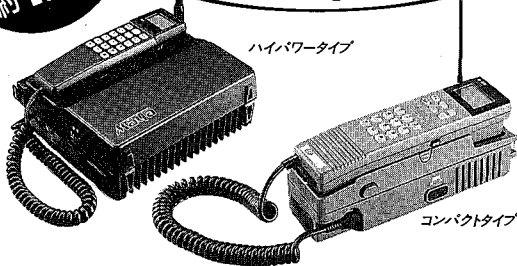


料金が断然安い!



通話料金は
船舶電話の
約1/3

マリネットフォン
Maya



操業をより安全に、情報交換をより正確に!

マリネットフォンは多彩な機能で操業をバックアップします。

- 海の110番が利用できます
- グループ通話が可能です
- 無線従事者の配置が不要
- 全国のNTT加入電話と通話ができます

◎ハイパワータイプは、市販のコードレス電話やファクシミリ等と接続できます。詳しくは、下記までお問い合わせください。

関西マリネット株式会社

本社：神戸市中央区港島中町6丁目9番1 神戸国際交流会館7F 〒650

お問い合わせ・お申し込みは ☎0120-303-245 までお気軽にどうぞ。

漁海況情報

兵庫県立水産試験場

海況

概況 播磨灘の水温は平年値に近づきつつあるが、依然として低めに推移している。塩分も先月に比べ幾分上昇したが、表層、中層、底層とも平年より低い値を示している。植物プランクトン量が少ないにもかかわらず、播磨灘北部を中心に薄い濁りが認められる。貧プランクトン現象は栄養塩濃度の上昇につながり、播磨灘全域で高い濃度を示している。栄養塩を大量に消費するためノリ養殖業に影響を与える大型珪藻はほとんど認められない。

水温 明石海峡部の水温変化を見ると、十月上旬から中旬にかけては温度低下が緩やかで、一旦平年並の水温を示したが、十月下旬以降の冷え込みで再び低下速度が早まった。北部沿岸を除く播磨灘十五地点表層水温平均値は二十℃であり、最近二十年間の平均値を〇・七℃下回っている。

透明度 播磨灘北部を中心に低い値を示している。植物プランクトン量が少ないことから、波浪などによる微細な粘土粒子の浮遊等が原因と推察される。

プランクトン 播磨灘全域で植物プランクトン発生量はかなり少ない。大型珪藻コシノディスカスもほとんど認められない。

栄養塩 鉛直混合が顕著で、底層水に含まれる栄養塩が表層に供給され、かつ植物プランクトンが少ないため、播磨灘全域で窒素、リン、珪酸とも高い濃度を示している。

漁況

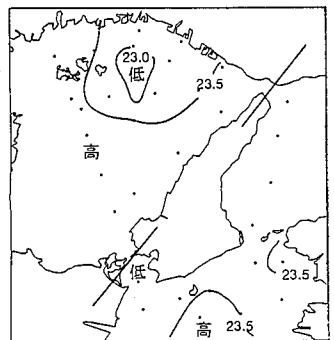
小型底曳網 明石海峡周辺の主漁場では、サルエビ、マダコ、マダイなどが主に漁獲され、吾智網ではマダイ、ハマチが漁獲されている。一方、紀伊水道では小型エビ類を主体に漁が行われている。各海域とも漁模様が全般的に低調である。

一本釣・曳縄釣 明石海峡及びその周辺海域では、タチウオ、サワラ、ハマチなどが主に漁獲されている。紀伊水道ではタチウオ、サワラ、アジ類が主に漁獲されている。サワラは、サゴシサイズが漁獲の大部分を占め、一歳魚以上の漁獲が少くない。

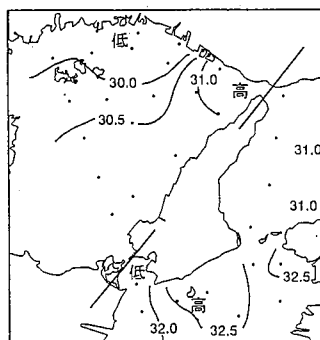
船曳網 しらす漁は、先月に比べて漁獲が回復傾向にあるが、依然として前年並の低調な漁獲で推移している。

カタクチイワシ卵・稚仔卵・稚仔 ともにほとんど見られなくなった。今年度の内海での発生量は卵の出現が平年値を上回っていたものの、稚仔の出現は低い値を示していた。

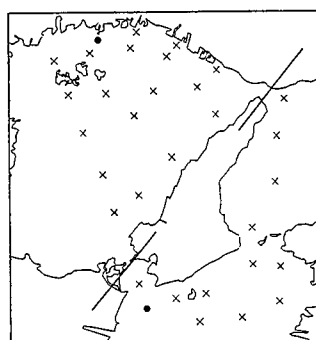
水温(表層、℃)



塩分(表層)



カタクチイワシ卵



海域別水温とカタクチイワシ卵・稚仔の出現状況(10月)

海区漁業調整委員会をたより

十月二十五日

兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会をセンタープラザ西館で開催

一、瀬戸内海機船船びき網漁業及び機船船びき網漁業の許可方針について許可の一斉更新に対する従来の許可方針の見直しにつき、意見交換と検討がなされた。瀬戸内海機船船びき網の許可枠配分、兼業船の取扱いに関する問題提起もあり、今後、各地域で調整を図りながら委員会での検討課題にすることになった。

二、岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会の平成六年度入会協定内容について

平成六年二月、当海区が当番で開催する連合海区委員会の議題である協定内容につき、播磨及び淡路地区の意見を街頭委員及び柳委員がとりまとめ、十二月の委員会で協議検討することに決まる。

三、その他

(1) 小型機船船びき網漁業に関する要望について

要島・坊勢及び西播地区の小型船びき網漁業同業会並びに関係漁業協同組合から、水産課に要望書提出があった。板びき網の漁期制限等緩和につき報告があった。これについては、淡路側を含め播磨灘関係組合の同意が必要。さらに隣接県及び瀬戸内海連合海区委員会の合意も必要であり、大臣告示改正まで複雑な問題のあることが確認された。

(2) 次回開催日について

十一月三十日、委員協議会開催を決定。

十月十八日

但馬海区漁業調整委員会委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催

一、今後の沿岸いかづり漁業の調整方針について(協議)

過去数回の委員会において、これまで予想されなかった問題点が浮かび上がってきたことから、当該漁業の規制の現況について再確認すると共に、情勢の変化に伴う見直しの課題と問題点を整理し、課題解決のための基本方向と漁業調整の具体策等を検討。継続協議。

二、その他

① 鳥根県隠岐海区における定置網漁業権の保護区域に係る委員会指示について(報告)

漁業権の一斉切替に伴い、隠岐海区において免許された定置網漁業権二十一件のうち五件の漁場につき保護区域を設定し、各様の漁業操業の一部規制する旨の指示が発動され、併せて関係漁業者への周知と指導の依頼があったことを報告。

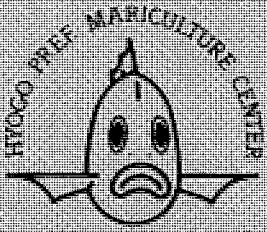
また、この依頼を受けて、当委員会より関係者あて必要な通知並びに依頼を行った旨、報告。

② 県外船によるフグ延縄の操業希望について(委員提案・協議)

但馬海域における操業希望がある旨、委員から報告があり、漁業調整上の問題点について検討の結果、漁具敷設の水深帯が広く、地元漁業との調整上問題が多いため、遠慮して貰うことと合意。

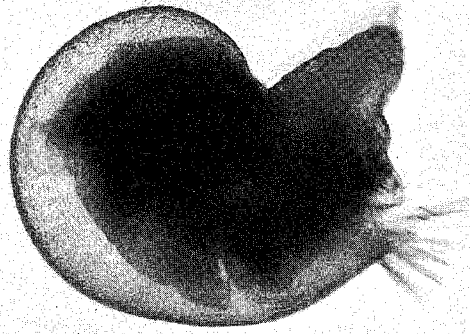
③ 平成五年度日本海漁業調整委員会連絡協議会の結果概要について(報告)

去る十月十三日・十四日の両日にわたり新潟県において開催された日本海ブロックの漁業調整会議の結果概要について会長から報告がなされ、次回改めて詳しい報告をすることと了承。



栽培漁業センターです

62



アワビのベリンジャー幼生

木枯らしが吹きはじめ、冬が駆け足で近づいて来る気配がします。さて、当栽培センターではアワビの種苗生産試験が始まりました。日本に生息するアワビ類は、十種類あり、このうち漁獲対象となっているのはエゾアワビ、クロアワビ、マダカアワビ、メガイアワビそしてトコブシです。

当栽培漁業センターではそのうちのひとつであるクロアワビの種苗生産試験を行っています。十月二十六日に母貝を採卵誘発し、一千万粒あまりの卵が採れました。クロアワビの卵は深い緑色をしていて、直径が四分の一ミリしかありません。そして受精後約一日でトロコフォラー幼生として孵化し、ベリンジャー幼生を経て四〜六日で着底して稚貝になります。

栽培漁業センターでは、稚貝の餌料として、予め透明の波板に付着珪藻を繁殖させ、その波板に、稚貝を付着させて飼育を行います。

このようにして、幼生を波板に付着させる作業のことを採苗と呼んでいます。採苗後、五カ月もすると付着珪藻を食べて成長したクロアワビが、殻長五ミリ位になります。その時点で剥離を行い関係市町に配布します。

しかし、そのまま放流するとカニ、ヒトデ等の害敵に食害されるため、四センチ以上まで中間育成した後放流されます。

兵庫県におけるアワビの放流は、日本海沿岸と淡路島南部で積極的に行われています。

アワビはあまり大きな移動を行わないので、種苗を放流することにより、地先資源の増加が見込まれます。それ故、地元の漁業者の期待は大きいものがあります。

私たち栽培漁業協会の職員も、その期待にそえるようがんばって行きたいと思えます。

(兵裁協 榎 秀隆)

普及員だより

松葉ガニ漁解禁

山々が色付き始めると恋しくなってくるのが鍋料理です。数ある鍋料理の中から王様を選ぶとすれば、カニスネが候補の最右翼に上げられるのではないのでしょうか。そしてカニスネと言えば松葉ガニ。標準和名はズワイガニと言いますが、県内では一般に松葉ガニと呼ばれています。

松葉ガニは、その美味しさが災いしてか、資源量は減少の一途をたどり、昨年の漁獲量は最盛期の1/3にまで落ち込んできており、水産関係者のみならず、多くのグルメファンから先行が心配されています。

さて、テレビや新聞などで「存じの方も多しと思えますが、今年も十一月六日に松葉ガニ漁が解禁されました。松葉ガニ漁の解禁を迎えると、但馬は急に騒がしくなります。(当所もマスコミからの問合せなどに追われるようになります。道には夏休みが終るとほとんど見かけなくなっていた他府県ナンバーの車が再びドッと押し寄せ、駅には発砲スチロールの箱をぶら下げた観光客があふれます。但馬水産事務所がある香住町には昨年三十五万人もの人が松葉ガニを食べに来られたそうです。

さらに、今年になってから松葉ガニをメインにした漁協の直販施設がオープンし、また、水産物販売施設や水産加工場、民宿、ホテルなども次々に新築されています。来年、但馬の祭典の一環として香住町で行れる海中公園展に向けて建設中の県営・町営の展示館の主役も松葉ガニです。

松葉ガニの存在は、漁獲量に反比例するかのようになります。ますます大きくなってきていると言えます。

この松葉ガニの漁獲を何とか増やそうと、保護礁の設置や移殖放流、資源管理の実施など官民あげて懸命に努力を続けています。

今や海の宝石とまで呼ばれるようになった松葉ガニも、おやつ代りに子供が食べていた頃があったそうです。先程の努力が実を結び、おやつ代りとまではいかなくても、家族と気軽にカニ料理を楽しむ日が早く来て欲しいものです。

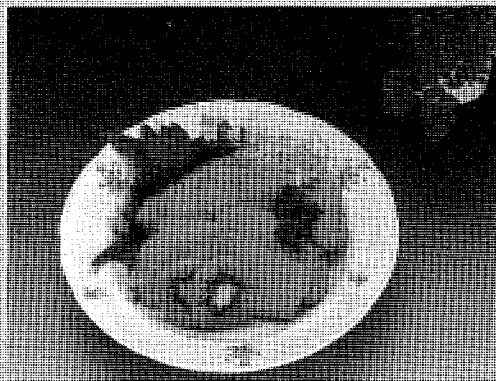
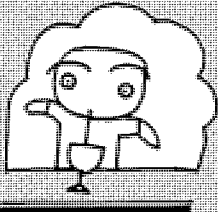
(但馬水産事務所)

◆材料◆ (4人分)

| | | | |
|-------|--------|-----------|-----|
| はげ(小) | 8個 | トマト | 2個 |
| 小麦粉 | カップ1/2 | きゅうり | 2本 |
| 卵 | 1個 | キャベツ(小) | 1/4 |
| パン粉 | カップ1/2 | ほん酢又は、天つゆ | |

◆作り方◆

- ① はげは、頭をとり皮をむいて三枚におろし、塩・こしょうをしておく。
- ② ①に小麦粉・とき卵・パン粉をつける。
- ③ 熱した油でカラッと揚げると、キヤベツのせん切り、トマトはくし形に切り、きゅうりは薄切りにして形よく盛り合わせる。

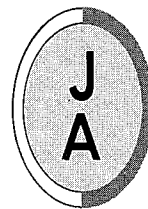


新設高松婦人部アイデア料理

旬の美味しい話 13



兵庫JCC通信
今、JA・生協では



日本生協連主催「生協法施行記念集会
PL法シンポジウム」開く

全国生協大会の名前が今回から変わった「生協法施行記念集会」(日生協主催)は十月一日午前、東京の安田生命ホールで、全国から七十一生協三百五十人が集まって開催されました。また、「消費者保護基本法制定二十五周年に よせて」と題して、弁護士(元・日弁連会長)の中坊公平氏が記念講演をおこないました。その中で中坊氏は、豊田商事詐欺事件の管財人として取り組んだ経験と実績などを交え、①消費者の権利。②あるべき法と有る法との乖離。③消費者は今何をなすべきか。の三つの視点から、消費者の自覚により勝ち取るべきものとして、消費者保護基本法の抜本改正を述べました。

また、同日、同じ会場で午後から行われた「PL法シンポジウム」は、これまでの取り組みの経過と情勢報告があった後、パネルディスカッションを開きました。

概ね、EC型PL制度の導入が望ましいとの

食料の安定的生産をめざして
農薬と食料を守る会結成



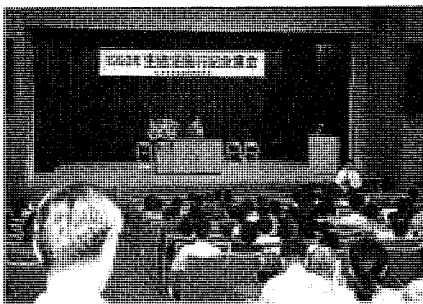
この会は、最近の農業と食料をめぐる問題を重視し、食料の安定的生産を身近な地域で維持していくことが結成したものです。

生産者と消費者が共に農業と食料について考えようと、「ひょうごの農業と食料を守る会」結成の集いが九月十八日、県農業会館で開かれました。

今年四月に結成された「農業市民会議」のいわば兵庫版。県単位の結成は、秋田県に次いで全国で二番目になります。

発起人には、神戸大学農学部保田茂教授、県消費者団体連絡協議会の長本政子事務局長理事、県生活改善実行グループ連絡協議会の安永ゆり会長ら七人が名を連ねています。また、これまでに個人、団体合わせて約四百人の会員を集めており、この中にはタレントの岸ユキさん、歌手の菅原洋一さん、音楽家のクロード・チャリさんら著名人もいます。

集いでは、地域の中なら食料の生産安定をはかり、この目的のためにお互いが努力していく、とのアピールを採択。今後、会員への情報提供、提言活動や共同行動、シンポジウムの開催などさまざまな活動を展開していくことを決めました。



日生協・竹本成徳会長のあいさつ

意見で一致したが、無過失責任の導入、推定規定情報公開など、各界での意見の相違は大きいものがあり、今後

の運動の高まりのなかで、消費者にとってPL法の制定が消費者救済の基本となるものとするために、ここ二カ月の運動がヤマであることを確認し、さらに強力な展開をすすめることを確認して閉会しました。

●サンテレビの

こちら海です



一日の始まりを前に（須賀さんにインタビュー）



底曳船上にて

'93年10月3日放送
(第836回)

ロケだより

由良の旨い魚
売りマッセ
～兵庫県洲本市由良町より～

兵庫県洲本市由良町は淡路島の南東部・洲本の市街地から海岸沿いの由良街道を約六キロ東へ行った港町です。由良町には、由良・由良町中央・東由良町の三つの漁業協同組合があります。今回は、その中の東由良町漁業協同組合を訪れました。

由良は、大阪湾の入口である紀淡海峡に面し天然の良港と好漁場に恵まれ、水揚げされる魚も、タイ・スズキ・ハモ・ハマチ・アナゴ・エビ・カレイ・ヒラメ等、主なもので七十種類を超えると言われる魚所。由良ならどんな魚でも手に入ると、京都や阪神間の料亭や旅館からも水揚げされたばかりの高級魚を仲買人から直接買い付けに来る程です。

この由良でもう四十年、六十歳を過ぎた今も行商を続ける須賀満子さんという働き者のお母さんが居られます。須賀さんの御主人も底引きの漁師さんです。近衛師団の軍人であったお父さんと生まれ故郷の由良に帰って来たのは彼女が小学校六年生の時。十九歳で今の御主人と結婚、行商を始めたのは結婚後間もなくのことでした。当時、由良には三十人を越える行商の人達が朝の船はそれは賑やかだったそうですが、それも今はわずか四人程に減ってしまっただけです。当時は車もなくブリキのカンカンという箱を担いでの行商、魚だけでなく洲本特産の鳴門オレンジ等持てるものは何んでも持って出たそうです。馴れない漁師の奥さんとしての生活とこれも馴れない行商で苦労も沢山あったと事もなげに語られますが、語りつくせぬ苦労もあって当然のことでしょう。でも今も人様に喜ばれることをモットーに由良の魚が何よりの自慢と働き続ける須賀さんの顔は若々しい表情に輝いています。

長男の正信さんが手伝ってくれるようになって十年。今は車を出掛けています

が、その一日は大変なものです。魚は注文の品も含め仲買人に依頼して集めてもらいます。毎朝二時には起きて御主人を漁に送り出し、正信さんを起こしてから一時間程、納める魚を港で準備、その日の荷の内容を納め先に電話連絡、四時半に家を出て大磯五時五十五分のフェリーで須磨へ向かいます。最初の納入先である大丸芦屋店へ着くのは七時頃です。大丸芦屋店は、魚は須賀さんから決めていたと云う程で三十年近いつきあいの中の信用がそうさせたのでしよう。それから難波高島屋、阪急百貨店梅田店へ。ここで息子さんと分かれて須賀さんは心齋橋大丸へ、息子さんは千里の阪急へ一個約十五キロの荷物を配達。須賀さんはひとり御主人が漁から帰る正午過ぎには由良へ帰り、御主人の魚をセリにかけやるとホットするのが二時頃です。これが毎日なのです。デパートの休日様が様々なで休みは余程のことがない限りナシ。それぞれデパートでは、洲本由良と産地を明記し、名古屋や東京からでも買いに來られると云う程の人気の魚なのです。少し高くても産地がはっきりしていて決して鮮度に間違いのない須賀さんの魚は各デパートの鮮魚売り場の顔としてしっかり定着しています。それにしても四十年間、子供さんが生まれる臨月の前日まで働いたこともあるというお母さんは、母として妻として、働く女として、東由良町漁協の婦人部の部長として、色んな顔を持っています。とても忙しい毎日ですが、それでも知り合った一人一人の人を大切に、由良を訪れる人があれば骨身をおしまず親切に対応します。いつも変わらぬ須賀さんにデパートの人達も拍手を惜しみません。四十年と言わず五十年六十年、元気で頑張ってくださいネ。スタッフ一同からもエールを送りたい須賀満子さんでした。

1993年11月10日発行 通巻 445号
昭和32年10月18日 第3種郵便物認可

発行人 兵庫漁業協同組合連合会

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金

〒652 神戸市兵庫区中之島2-2-1
TEL 652-3424 FAX 671-6655

定価80円(本体78円)